

令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

調査対象：5年生

調査事項

ア 実技に関する調査

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査）

1 結果と分析

- 男子は、立ち幅跳びや長座体前屈等すばやく動き出す能力や大きく関節を動かす能力が優れている。
- 女子は、立ち幅跳びや上体起こし等すばやく動き出す能力や大きな力を出す筋力、持続したりする能力が優れている。
- 男女とも、反復横跳び等すばやく動作を繰り返す能力である敏捷性に課題がある。

2 取組についての評価

(1) 体育科の学習指導

①効果があった取組

- ・友だちとの交流を通して、動きのポイントや技のこつ等を知ることができる学び合う活動の設定
- ・児童一人ひとりがもつ目標に応じて、選択して取り組むことができる場や活動の設定

②改善を図る点

- ・タブレットで撮影した動きをもとに、児童自身が試行錯誤し合う活動の設定

(2) 今後の体力向上に対する取組

- ・めあてとふり返りがある学習、学び合い活動の設定、運動量の確保、課題に応じた場の工夫など、子どもの主体性を育む体育科学習のさらなる充実
- ・学校全体で定期的にレクリエーション（運動を伴うもの）を設定し、児童一人ひとりが楽しみながら運動する取組を行う。
- ・体育学習の準備運動時にラダーを活用した運動を行い、課題である敏捷性を高める取組を行う。